



社会教育だより「かけ橋」はバックナンバーも含めて下北教育事務所のホームページでご覧になれます。

下北教育事務所  
QRコード

令和5年度

## スポーツ推進委員・スポーツ指導者等 むつ下北地区研修会

～6月24日(土)むつ市中央公民館～

**講義・実技**「地域スポーツの現状と可能性  
～スポ少、部活動、生涯スポーツ  
の今後の在り方～」

**講師** NPO法人スポネット弘前  
理事長 鹿内 葵 氏



将来の子どものためのスポーツ環境や受け皿となる地域をどのように構築していくか、スポーツ推進委員・スポーツ指導者等の果たす役割等について講演・ワークショップを行っていただきました。



### ○ワークショップの内容

・地域スポーツ環境の課題は？  
・20年後の皆さんの地域はどうなっているか？ 等  
参加者は、少子化・指導者の確保等、どのように対応していくか真剣に話し合っていました。最後に、明日からできることを確認し終了しました。



#### 【参加者の声】

・部活動の地域移行にあたって、行政・学校・保護者・指導者等、コミュニティーをしっかりと作り、連携していくことの重要性を感じた。  
・スポーツする環境が、こんなに衰退しているとは思わなかった。下北だけではなく、県内どの地域でも抱えている問題だと知った。

## 放課後子ども総合プラン支援員等研修会(前期)

～6月13日(火)むつ市中央公民館～



演題：「子どもの姿からはじめるよりよい支援」  
講師：青森明の星短期大学  
子ども福祉未来学科  
准教授 高橋 多恵子 氏

### ○子どもの内面を理解

表面的な言動だけでなく、その言動の背景にあるものは何かに心を寄せる。

子どもは心にある思い全てを出さないで、引き出す努力が必要である。言葉だけではなく、「表情」「体の向き」「しぐさ」等も観察していく。

### ○子どもを理解するために

- ・誘導せず、さえぎらず、否定せず、決めつけず、提案せずに「聴く」
- ・子どものあるがままを「受け入れる」
- ・子どもとの「つながりをつくる」
- ・子どもの「心の流れに沿う」



### ○子ども時代に大切にしたいもの

- ・「自分は愛されているんだ」「大事にされる存在なんだ」と感じる  
→自己肯定感につながる
- ・「自分で決めて自分でやり遂げる」経験  
→挫折、葛藤の経験



※いろいろな経験を通して、「こころ」と「からだ」を柔軟に

### ○最後に「よき助言者になるより、よき理解者になれ」

子どもでも大人でも「安全地帯」が必要であり、自分を受け止めてもらったり、わかってくれたりする存在が大事である。

#### 【参加者の声】

・子ども理解についての事例が具体的でした。受け止める、共感する、寄り添って支援に当たっていきたいです。

## 小学生による縄文遺跡と地域の文化財体験事業

今年度もむつ市教育委員会生涯学習課のご協力のもと、大湊水源池公園で、大湊小学校ジュニアガイドツアーの学習会がスタートしました。たくさんの方をメモしたり、タブレットで写真を撮ったりして意欲的な活動をしていました。

学習した成果を生かして、10月上旬に現地で参加者を迎えてガイドをします。ぜひご参加いただければと思っています。



水源池公園の植物について調べました。



沈澄池堰堤の取水塔の内部を見学しました。

## 学校と地域・企業等をつなぐキャリア教育研修会

～6月22日(木)むつ市立むつ中学校～

生徒に望ましい職業観や人生観を育むとともに、参加者がセミナーの運営方法を学び、意見交換することで役割等の理解を深め、参加者同士の関係を構築するために開催されました。

### ○研修会前半

生徒が講師との対話を通して、よりよい生き方について考える機会となりました。

(職種：アニメーター、薬剤師、教員等16人の方々が参加しました。)



### ○研修会後半

関係者が一堂に会し、意見交換を行いました。参加者同士の関係を深め、ネットワークの構築につながるよい機会となりました。

